

平成 28 年度 学位記授与式 学長告辞

本日ここに、卒業式を迎えられた皆さんに対し、大学を代表して祝意を表するとともに、皆さんをこれまで、支え、育ててこられたご家族の皆様をはじめ、本日駆けつけていただいた関係者の方々に対し、心からお祝いを申しあげたいと思います。そして、君たちが明日からの新たな一歩を歩み始めるにあたり、「松ヶ崎から世界に飛翔せよ」これを卒業生の皆さんへのはなむけの言葉としたいと思います。そして京都工芸繊維大学もまた君たち卒業生とともに、世界に羽ばたき、飛翔しようとしています。

京都工芸繊維大学は、強い個性を有する工科系の国立大学として近年注目を集め、急速に社会的な認知度を上げています。2013 年には文部科学省「知の拠点整備事業 C O C」、つづいて 2014 年には「スーパーグローバル大学創生支援事業 S G U」、さらに 2015 年にはいわゆる「C O C + 事業」に採択されました。

また、リクルート進学総研が高校生を対象に行った「進学ブランド力調査」では、ここ数年来、志願度も上昇し、日経キャリアが行った全上場企業対象の「企業の人事担当者から見た大学のイメージ調査」、つまり就職力ランキングにおいて本学卒業生の実力は、全国国公立大学 800 校中総合 14 位、独創性において第 9 位の評価を得ています。朝日新聞の調査では、本学の学生の勉強時間の長さは第 4 位であり、よく勉強していることが示されています。

また、2012 年全日本学生フォーミュラ大会において総合優勝の栄誉に輝いたのに続いて、2013 年と 2014 年においても総合 5 位の成績を収め、2015 年には総合準優勝に輝き、本学学生の技術力の高さが示されました。さらに本学の教育方法は、日本機械学会教育賞、日本建築学会教育賞を受賞したことなどにみられるように、学会や社会から高く評価されています。我々の行っている大学教育の成果が社会から認められ、高校生からも企業の方からも高い評価が得られていることは大変うれしいことであり、また本学学生の皆さん、卒業生の皆さんの勉学や学習の努力を私たちは大変誇りに感じています。本日卒業される皆さんもまた自信と誇りを持ってこれからの人生を歩んでいただきたいと思います。

本学は文部科学省から機能強化事業を推進する大学に抜擢されています。ユニット招致と呼ばれる方法でハーバードやスタンフォード、あるいはETHやRCAといった海外の有力大学から講座やグループを招聘し、共同研究や共同教育を行っています。一方、タイや英国にオフィスを開設し、海外インターンシップや交換留学の拠点として活用していきます。タイのチェンマイ大学とジョイント・ディグリー制度によって大学院に新専攻を開設し、共同教育を実施すると同時に、バンコクにおいてキングモンクート大学産学連携センターに共同研究の拠点を開設する計画です。日本国内においても、京丹後市サテライトキャンパスや綾部市地域連携室が活動していますが、本年4月から福知山に北京都分校を開設し、東京青山にも、東京オフィスを開設しました。

こうした大学活動の盛り上がりと活性化を好機とし、私たちは世界に冠たる大学になろうとしています。卒業生の皆さんも、海外で活躍できる人材、現場でリーダーシップを発揮できる人材、我々が「テックリーダー」と呼ぶ人材として大いに活躍していただきたいと考えています。

本日の卒業式にあたり、京都工芸繊維大学が掲げる理念を踏まえ、「科学と芸術」、「知と美と技」について、社会におけるリーダーシップについて、学術文化の領域における知性と反知性という立場について、今一度、深く考えていただきたいと思います。

京都工芸繊維大学の教育研究の柱は「科学と芸術」ですが、この二つをともに究め、深いレベルで橋渡しすることは大変難しいことです。芸術的な営みは、個人的な精神活動とみなされてきましたが、芸術を個人的な趣味の領域から解き放ち、時代を切り開く社会的な力に変換していくためには、科学的思考が有効であると考えます。一方、科学は事実に基づく客観的思考を旨とし、主観的な判断を伴わない営為のように言われることもあります。実際には、感覚や直観的判断、そしてその先にある感動を求めて日々の活動をおこなっていることに留意すべきです。

一般に科学的な成果は、個人の好みや主観によって左右されるのではなく、誰にとっても了解可能であり、説明可能な論証能力をもった普遍的なステートメントでなければならないとされています。大学における学問は、主観的な一人ごとを超えて、不特定多数の人に認められるような普遍性を獲得することが大切です。

単純化して言えば、科学的分野では、普遍的で唯一の真理を求めて研究活動を行っていくのに対して、芸術分野や文系の学問分野では、どうでしょうか。文系の学問領域では数式による記述にはなじまない主題、数量化し得ない対象にこそ関心が向けられています。数量的な取り扱いを拒否し、数量化にあくまで抵抗する対象とは、何か。それはもちろん人間であり、人です。人間あるいは人間が作り出した文化事象、社会現象、歴史などは数式に還元されない多元的な対象であり、実験や再現性にもなじまない事象です。

このことから、芸術や文系の学問では、唯一の真理ということを前提にした研究活動をすることはできません。非常に重要で理解しがたいことではありますが、Aにとっての真理とBにとっての真理は両立することを前提に、時代の制約の中での歴史的事象、地理的制約、といった立体的な視点から文化的事象を比較することが研究活動の前提とされるのです。

こうした人間社会における多様な価値観の中の真理と自然科学が目指す唯一の真理とは、どのように関連づけることが出来るのでしょうか。

大変興味深いことに、科学的な方法によって真理をもとめ、深く探求していくと、かならずしもただ一つの真理にたどり着くとは限りません。単一の真理が支配する世界ではなく、むしろ一つのモノが複数に分離し、多様化していく世界に出会います。

一つのモノが多数に分岐していく論拠の一つは、論理的な非決定性です。身近な例では「私は嘘つきである」という文の真偽を決定しようとする、決定不能に陥ります。これは単なるパズルにとどまらず、ゲーデルの不完全性定理という数学基礎論を揺るがす大きな問題へとつながっていきます。一つの文章が真であり、同時に偽でもあるという両面性は振動現象とも呼ばれ、先端科学の物理的現象にも見られる事象です。2015 年ノーベル物理学賞を受賞された東京大学の梶田隆章教授は、ニュートリノ振動現象の発見によって、ニュートリノが質量をもつことを示されました。ニュートリノはミュー型からタウ型に変身し、再びもとに戻るといった振動現象を繰り返します。

真理を求めて探究を続けた結果、多様な世界にたどりつくことがあります。この多様性は、言いかえれば、振動、決定不能あるいは曖昧さに満ちています。しかしそれは決して否定的なモノではなく、論理的な帰結であり物理的な裏付けをもつ豊かな世界でもあります。

私たちは、多様性を不合理なものの集まりと見なしてはならないと思います。多様性を切り捨て、多様な価値観を型にはまった単純な解釈や短絡的で自分勝手な解釈に閉じ込めてはならないのです。実証性を軽んじ、自分に好きなモノだけを取り出す態度や自分に都合の良いように世界を理解する態度は現に慎まなくてはなりません。

その上で、卒業生の皆さんには、科学技術に立脚したグローバルな「テックリーダー」として、遠くを見つめ、広く世界を見渡し、勇気ある決断、責任ある判断を行える人材を目指していただきたいと思います。

京都工芸繊維大学は、京都蚕業講習所および京都高等工芸学校に端を発する110余年の歴史の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築きあげてきました。この栄光の歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性にもとづく技術の創造をめざして技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合をめざし、教育研究の成果を世界に発信していきたいと思います。

本日卒業される皆さんの、今後のさらなる飛躍と発展を祈念してお祝いの言葉といたします。

平成 28 年 3 月 25 日
京都工芸繊維大学長
古山 正雄